

「新生児聴覚スクリーニング検査」に関する課題 (研修開催時アンケート結果まとめ)

1 アンケート実施方法

令和元年6月11日(火)東京都母子保健研修「新生児聴覚スクリーニング～検査の実際と支援について～」開催時に研修受講生(東京都・区市町村の母子保健医療従事者と都内産科医療機関・助産所職員)へアンケートを実施

(アンケート内容)

4月から都内の全区市町村で新生児聴覚検査費用の公費負担制度が開始され、「新生児聴覚スクリーニング検査」に関して、日頃業務を行う中で課題と感じる事について自由記述方式で記入いただき、研修終了時に回収。

2 アンケート回答者

研修参加者176名に対し、アンケートの回答者は159名で、94.9%の回収率であった。

3 アンケート結果

(新生児聴覚検査スクリーニング検査に関して課題と感じていることについて)

区市町村、医療機関ともに「リファーとなったときの保護者への説明が難しい」等、リファー児へのフォロー体制についての意見が多くみられた。

○区市町村からの主な意見

【スクリーニング検査の受診状況把握・受診勧奨等】

- ・検査の必要性を保護者に理解してもらえない。
- ・検査受検の有無や結果を保護者が理解していないことがある。
(母子手帳に結果が適切に記載されていない。)
- ・未検査児の受け入れ先について(受け入れてくれる医療機関が少ない。)

【リファー児のフォロー・精密検査へのつなぎ】

- ・リファーとなった場合の支援体制・フォロー体制が整っていない。
- ・フォローの経験が少ないため十分な相談対応ができるかが課題。
- ・つなげる精密検査機関、療育機関が少ない。

○医療機関からの主な意見

【検査の説明や未受検児へのフォロー】

- ・検査を希望しない方への勧奨方法について

【リファー児への対応について】

- ・リファーとなった場合の保護者への説明や対応が難しい。保護者支援が課題。

【医療機関における検査体制・スタッフの対応について】

- ・検査数が増加し、検査の時間を要するため技師の負担が増えている。技師の確保や技師以外の者がスムーズにできるような支援があればよい。